菊の香漂う村民文化祭
バザー、金魚すくい、がらくた市
親子で楽しむ

今年の文化祭は、青年団、横越分館の行事と一緒に開催しました。その主なものを記してみたいと思います。

青年団の行事

バザー

カレーやうどん、おにぎりは自分達の手作りのものを食べていただきました。味はともかくとして、あたたかいものが好評でした。ジュースやコーヒーもなかなかのものです軽音楽をかけながらいい雰囲気でした。

金魚すくい、がらくた市

子供の好きな金魚すくいと不用品の即売のうち、マンガ本の安売りは、子供達に好評でした。

金魚すくいは、何かまた祭りが来たような印象を与えたようです。

本館の行事の一つ、菊花展を、今年も開催しました。しかし天候の具合でしょうか、失敗した人、出来の悪かった人が多かったとみえて、昨年より鉢数は百ぐらい少なかった。でも出品されたものには丹精こめたあとがみられ、すばらしい出来ばえのものが多くあった。総合成績入賞者及び個人入賞者は次のとおりです。

一位　村長賞　岩田　一司
二位　議長賞　高橋　達栄
三位　教育委員長賞　佐藤　登
四位　公民館長賞　伊藤千代吉
五位　農業委員会長賞　佐藤三八六
六位　農業協同組合長賞　桜井　スズ
七位　商工会長賞　高橋　満枝

◎個人賞（総合で入賞できなかった人）
藤田健太、五十嵐七次、桜井由江、本間伝次、桜井作一、坂井幸雄、渡辺一、神田隆雄、米木要次郎、佐久間作太郎

横越分館行事

書道教室と生花教室の作品を展示しました。生花は小原流と千家古流と二派によるもので、どちらも花の香りを部屋いっぱいに漂よわせてくれました。

沢海分館文化祭

十一月二十七日文化祭を開催、毎年大好評の農作物品評会を中心に行なわれました。また力作ぞろいの絵画、書道は実に立派で、水準の高さがうかがわれました。

横越分館の書道、生花展

秀作と熱演の 木津分館文化祭

十一月三日木津分館主催の文化祭は、天気にも恵まれ午前九時の開館と同時に人気の農産物品評会々場に村外婦人を加えての予約に殺到する等好調のうちに開幕された。

婦人グループの書道三教室の力作は会場に溢れんばかりの出品に訪れた参観人を驚かせ、余技の会場は小阿賀吟社の同人、八十有二才の東城素秋翁以下全員短冊、色紙、半折の揮毫を責任出品、絵画には新発田自衛隊勤務で県展奨励賞を受賞した阿部昭吉氏の特別出品七十才を過されての腕の冴えを見せられる佐藤彦一郎氏の裸婦、杵鞭君の風景等々、地区の人達の目を楽しませるに充分な秀作揃えであった。

午前十一時より体育館のステージで地元民謡クラブの面々に、賛助出演を頂いた横越民謡クラブ、川根谷内民謡クラブ、ヤマザキパンの同好会荻野会の競演に午後二時までの三時間に老人、婦人層の参観人は帰りを惜み乍ら賛辞を寄せておられた、亦演技の中幕を利用しての果物原価競売りを分館文化部長谷井清君の名調子に乗せての捌きも一興であった。

菊花展も、山崎公民館長の計らいによる審査員（本館と同審査員）によっての審査を受けて入賞者を決定したが、次年度よりの菊花出品に大きな教訓を得たのが収穫であった。

読書感想文　三浦綾子著

「裁きの家」を読んで

小杉　小田トキイ

或る日テレビを見ていたらドイツ文学者高橋義孝氏が、女性アナを相手に読書について と言う題で、お話をしておられました。氏はどんな本にも読む人の心を打つ何かがある筈だ、其の何かを掴むのが読書であると。

私が最近読んだ本で一番心に残っているのは三浦綾子の「裁きの家」でした。これは大学教授の兄夫婦に大学生の息子、サラリーマンの弟夫婦に高校生と中学生の二人の息子、それに未亡人の姑、この二組の家庭に展開される親子、夫婦、兄弟嫁姑の問題を追及し又病妻を十年余りも慰める夫、又大学生の友人の考え方など、いろいろの角度より描いたものです。作者三浦さんがクリスチャンのせいであろうか、いたる所にクリスチャンとしての物の見方、考え方が現われていると思いました。

高校生の兄が我儘一杯にふるまう弟に、自己主張の果ては死である。自己主張とは自分のしたい放題のことをすることだと言って聞かせる。

そしてその自己主張の固まりの様な女で弟の家庭を壊し、姑を家から追い出し、息子の友人を誘惑する母を殺し、自分も死のうとする息子が最後に書き記した言葉は、殺そうとすることはたやすいことであるが、難かしいのは共に生きることだと言っていることです。

又、現代医学では治らない妻をやさしく見舞う夫を三浦さんは共に生きる夫婦として描いていますが、この共に生きると言う心が失なわれた時夫が妻を子を捨てたり母が我子を殺したり、捨てたりするのではないでしょうか、又三浦さんはこうも言っていましたが、家庭は裁判所ではないけれど、現代は家庭も又裁き合う場であって憩いの場でもなく、許し合う場でもなくなっていると。

親子、夫婦、兄妹が生活を共にする家庭にとって、共に生きる自已主張の果ては死であると言うこの言葉は、クリスチャンでない私達にとっても大切な言葉ではなかろうかとつくづく考えさせられました。

目まぐるしく移り変る現代社会において、少しでも心豊かに暮す為にも自分の反省の書として手元に置きたい本です。

青年女子バレー全国大会
滋賀県に惜敗!!

中学校女子バスケットに続き、村民の期待を集めていた青年団女子バレーの全国大会は十一月十一日から東京都体育館で行なわれました。

一回戦は北海道を2－0で破った滋賀県チームと対戦。

第一セット、シーソーゲームの白熱した試合であったがおしくも17対21でこのセットを落してしまった。

第二セットに入ってからは実力を発揮し、速攻を中心としたプレーで応戦、21対0でこのセットをものにし、セット数1－1とした。

第三セット、応援のギャラリーからは横越有利といわれながらも、前半、シーソーゲームの苦しい試合となり、7対11で横越が追うかたちで、コートチェンジをした。その後、横越はミスが多くなり、そのあせりがプレーにも出、結局11対21でこのセットを落し、セット数1－2で惜敗しました。

選手のあせった気持を、おさえることができなかった。これまで「試合はリズムである」と選手と共に確認し、予戦を勝ち抜いてきながらも、今回の全国大会でそのリズムさえ、とれなかったことは、素人監督のいたらなさをおもいしらされた。

それにも増して、村民各位より多大なるご支援、ご協力を受けたまわり、厚く感謝申し上げます。（監督　中野）

新春俳句大会御案内

㈠日時　昭和五十三年一月二十九日(日)　午前九時三十分より
㈡場所　横越村公民館
㈢兼題　「新春雑詠」六句
㈣兼題〆切　昭和五十二年十二月二十日〆切　横越村公民館俳句係宛
㈤席題　当日発表
㈥選者
桑野峰松　坪谷十九一
国兼昇月　鈴木松観
磯部鼠角　今井夫子
山田早苗　公民館長

こどもサロン

(横小3年　神田明子)

〈評〉

この作品は競書大会に出品するために、夏休み中頑張って練習したものです。

筆のつけ方、とめ方、はね払いなど、基本的なことをしっかりおさえ、ていねいに書いています。「小犬」はなかなかむずかしい字です。特に「小」のはね、「犬」のはらいなどすばらしいと思います。

三年生としてすばらしい作品だと思います。

簡易保険入賞作文

くらしに役立つ簡易保険

横小六年一組　小林ひろみ

去年の五年生の時、入賞ができて以来簡易保険に興味を持つようになりました。

「簡保の樹大きく咲くかな」。の見出しは去年の十月三十一日の新潟日報の記事でした。私はこの新聞記事をスクラップブックにしてとってあり、そのわきに私の感想を書いておきました。初めは簡保の樹とは、とても不思議に思いましたが、内容を読んでやっとわかりました。

学校の正門と体育館の方から入る所二カ所に大きな看板が立ててあります。

『この横越小学校統合校舎建築工事の資金の一部は、郵便局の簡易保険金の積立金から還元融資を受けています。（横越村）』

と、雨や風や雪にさらされてもはっきりと字が見えます私達は毎日その看板を横目で見ながら通学しています。

これこそはっきりと、「ありがとう」と言いたい気持ちになりました。

私達の新しい校舎は、創立記念一周目を向かえ記念行事があり、村長さんや校長先生からいろいろとお話がありました。

「大勢の人達の努力によって建てられたこのすばらしい学校で学べる皆さんは幸せです。しっかり勉強しましょう。」

とおっしゃいましたが、私はなるほど簡易保険金で積み立てをしたお金がこのように使われているんだな、と今よくわかりました。

まさしく、国作り町作りに役立つ簡易保険で加入者のみんなが払い込んだお金は保険金として返ってくるまで、郵政省が預かっていて市町村に貸し出され、学校、病院、住宅、水道、道路、港の建設などに役立っているということが実際にわかり、この作文を書いてひとつ利こうになったような気がします。

そこで一年進級した私は、あまり細かに調べなかったかくれたしくみまで徹底的に追求しようというわけです。

郵便局の人の話によると私達の住んでいる横越村では一軒あたり五人家族であれば三人は加入しているとのことで加入者の年令は生まれてから六才までが非常に多く四十才から五十才ないし六十才あたりの人も多く入っていることがはっきりしました。そして加入者は年々ふえていることもわかりました。

国が経営しているのでつぶれる心配のない簡易保険は安心しきって積み立てができます。私は、五年から六年にわたって簡易保険についていろいろ勉強しましたが、とてもためになりました。これからも毎日の勉強にますますがんばりたいと思います。

山崎公民館長 県の薬物乱用対策推進委員に委嘱

青少年の健全育成をめざし、県では薬物乱用対策推進本部が作られました。その委員に、本村の公民館長が任命されましたのでお知らせします。

青年の集い クリスマスパーティー

○期日…12月25日　PM五時
○会場…横越村公民館
○参加資格…村内に住む青年及び成人
○参加費…千円（パーティー券）
○申込先…公民館、青年団員
○主催…横越村連青、公民館